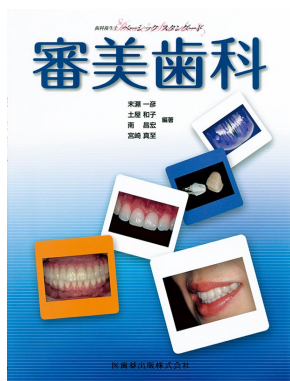


審美歯科治療のベーシックが
やさしく学べる！



歯科衛生士ベーシックスタンダード
審美歯科

末瀬一彦・土屋和子・南昌宏・宮崎真至 編著
B5判/160頁 定価：本体4,400円＋税
医歯薬出版（2013年7月）

東京都調布市・小林歯科医院
評・小林明子（歯科衛生士）



「審美歯科」という用語が歯科界のみならず一般にも普及するようになり久しくなりますが、皆さんは、審美歯科という分野にどのようなイメージをもっているのでしょうか？ 実際には、多くの方がどのような分野なのかをはっきり説明できないまま、漠然と“審美歯科”という用語を使っている感が否めません。そこをはっきりさせるためには、まず“美とは何か”という命題から解決する必要があります。

“美”については世界中で古くから研究されていますが、日本での“審美学（美学）”という言葉は、ドイツ語の“Asthetik”を森鷗外が訳したのが始まりとされています。また、江戸末期の民芸運動の提唱者でもあり、心理学者の柳宗悦は『美しさの特徴は丈夫で長もちするもの、それを健康美という』と定義し、健全で実用的であることに美しさを見出したといわれています。審美歯科治療においては、まさに単

に見かけの美しさではなく、本来その人のあるべき健康な口腔環境の姿、「噛む」「話す」といったスムーズな機能がまっとうできる姿、その人の顔貌、口腔組織との調和を備えた治療を目指しているわけです。

そのために、私たちには日常臨床のなかで、患者さんの「こうしてほしい」「ここを変えてほしい」という審美的要求に医療者としてこたえるために、歯科領域における審美を客観的にとらえ、患者さんの訴えや状況を分析し、表現できる能力が要求されるのです。この一つひとつを的確に解決していくために、美に関する総合的な知識、審美を視野に入れた基本的なものの見方、色に関する知識、造形的調和美の黄金比率などの理解が不可欠になってきます。しかし、このような膨大な知識を得るために、どこから手をつけていいのかわかる方が迷い、悩むのではないのでしょうか？

本書は審美歯科分野の第一人者である末瀬一彦先生、南昌宏先生、宮崎真至先生らが、「歯科における審美とは何か」の本質を解説し、歯の形・色の見方、顔貌、歯、歯列、歯周組織の審美的観点からの捉え方、評価基準などを、実症例とシェーマを用いて詳しく解説しています。さらに後半では、土屋和子先生を筆頭とする審美歯科に携わる歯科衛生士が、基本的修復治療からインプラント、ジルコニアなど、最新審美治療までの具体的ケア方法を、日常臨床での経験を活かしながら器材・テクニックを網羅しまとめています。私にとっても、長い間、“こんな本がほしかった”と待ち望んだ書籍です。

患者さんの“真の健康美”を目指し、QOLを向上させるために、本書を歯科衛生士のみならず、審美歯科治療に携わるすべてのスタッフに一読してもらいたいと願います。

また、チェアサイドに置いて活用しながら、真の審美歯科への追及を深めていただきたいと思います。